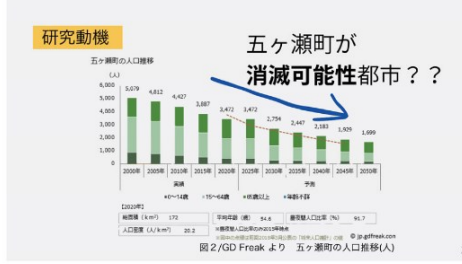


4-1 各大会等受賞作品 ①グローバルフォレストピア探究成果発表会最優秀賞受賞作品

## わらじで盛り上げる五ヶ瀬町

～魅力を活かし、交流人口を関係人口へ～

五ヶ瀬中等教育学校 5年 田上美 担当教諭 吉野栄造先生



GF 探究成果発表会  
(R8年3月13日実施)  
発表動画はこちら

### ①観光客を呼ぶ ②五ヶ瀬について知ってもらう

パンフレット → わらじの作り方動画 → 茶葉を使ったしおり → 地元小学校へ

### 3年生、4年生での取り組み

パンフレット作成 アナログ

ウェブサイト作成 デジタル



### 新たな発見

エシカルトラベル  
その土地に住む人、  
環境、地域文化に  
優しい旅のあり方

### 振り返り

人を呼ぶためには、、、

## 独自性のあるモノ & エシカル

「観光客の呼び水」 = 「エシカル特産物」

エシカル×特産物  
→人や環境、地域文化に優しい特産物  
歴史や文化を学ぶうえで重要

	従来の特産物	エシカル特産物
主な特徴	その土地ならではの名産品・売れるもの	+ 人や環境、地域文化に優しい特産物
重視する価値	「モノ」としての魅力	+ 「背景」(歴史・文化)の学び
得られるもの	消費・所有の満足感	+ 新たな気づき・人との関係
将来の役割	経済的な流通	+ 町のよさを語り継ぐ(ブランド化)

### 延岡でのイベント 2025.10.25

概要・成果  
・旭化成と協力  
・延岡の小学生の親子5組が参加  
・五ヶ瀬町外の方からの関心!

気づき  
・小学生を対象にもっと大規模のイベントを企画してもいいのでは  
・一足のわらじを作るのに2時間 実際に歩くことはできなかった  
→もっと簡略化してもいいのでは

### 五ヶ瀬でのイベント 2025.12.20

概要・成果  
・五ヶ瀬町内の全小学生宛にチラシを送付  
・満足度 → 100%

気づき  
・ターゲットは子供より大人  
→没入感体験  
・「トキ」消費の重要性

### まとめ

最初の問い) 五ヶ瀬町の魅力を生かして観光客を増やすには?  
最終目標)

魅力を伝える → 交流人口 → 関係人口

「モノ消費」だけではなく「コト・トキ消費」に価値を見出す傾向  
→心が動く体験 = 交流人口から関係人口へ

結論) エシカル特産物「わらじ」で五ヶ瀬町をより発展

### 展望

- Youtubeのデータを用いた統計解析
- ミニ観光地紹介サイトの改良 → 多くの人がアクセスしやすいものへ
- 4月ごろに五ヶ瀬町をわらじで2km 歩くイベント開催

ニーズの深化  
体験の深化

「原点深化」 → わらじ遠足という本校の伝統について、良さをさらに深掘りし、デジタル&リアルの方でエシカルトラベルに昇華させる! 4月のイベントを集大成とする

ご清聴ありがとうございました



「文理融合」「デジタル×リアル」で探究する宮崎の水防災・水環境

水防災 **リアル** 研究成果の成長への発信・地域への提案

避難経験から課題検証

野向自治会代表 中高生提言を反映

青島の津波防災に4事業

宮崎市立五ヶ瀬中等教育学校

「文理融合」「デジタル×リアル」で探究する宮崎の水防災・水環境

水環境 **リアル** 活動の推進体制

宮崎大学農学部 竹下伸一准教授  
山腹用水路についての専門的知見提供

五ヶ瀬町 役場  
各種文献資料・施設等の提供

三ヶ所地区 土地改良区

五ヶ瀬中等教育学校 副校長的教育方法実証プログラム  
コンソシアム

地理選抜生3名  
（「地理探究」授業内で実施）

フィールドワーク  
日々の活動サポート（GIS操作法等）

世界農業遺産 高千穂郷・椎葉山地域 活性化協議会

五ヶ瀬町教育委員会  
コーディネーター 佐藤翔平さん

五ヶ瀬中等教育学校  
上田聖矢先生

「文理融合」「デジタル×リアル」で探究する宮崎の水防災・水環境

水環境 **リアル** [RQ①] 山腹部の高千穂郷・椎葉山地域に、なぜ「山腹用水路」があるのだろうか？

「山腹用水路」の歴史（「三ヶ所用水（五ヶ瀬町）」の例）

＜明治以前＞  
傾斜地において焼畑農業（耕作・実、土の流出、麻の実による落石等）  
米は味◎ 安定収量◎ 持ち持ち◎  
→水田を作りたい！

＜昭和2年＞  
川の水を利用した大規模な水路計画立案  
水量不足で苦悩…

＜昭和2年＞  
ついに通水式！  
270町歩（約270ha）になり  
自給自足が可能

「食米への関心、が農動力となり、人々の取水の努力と土木技術の発展も寄与して、最中の歳月をかけて「山腹用水路」が完成

「文理融合」「デジタル×リアル」で探究する宮崎の水防災・水環境

水環境 **リアル** [RQ②] 高千穂郷・椎葉山地域の「山腹用水路」には、どのような特徴や工夫がみられるのだろうか？

「山腹用水路」の特徴

＜高千穂郷・椎葉山地域 農業遺産認定コンプレックス＞による文脈解説

山腹用水路と河川との間の狭小な台地上に小規模な水田

水田から谷奥に上って数十キロにわたって建設

高千穂用水路 水路延長 20km

一般的なお水路に比べて、総延長は長く 実益面積は小さい

「文理融合」「デジタル×リアル」で探究する宮崎の水防災・水環境

水環境 **リアル** [RQ③] 高千穂郷・椎葉山地域の「山腹用水路」には、どのような特徴や工夫がみられるのだろうか？

「山腹用水路」建設の工夫（フィールドワークによる現地調査）

小川川との立体交差（小川川の上を用水路が通る）

手回りのトンネル

総橋

サイフォンの原理を利用したパイプライン

「文理融合」「デジタル×リアル」で探究する宮崎の水防災・水環境

水環境 **デジタル** [RQ③] 高千穂郷・椎葉山地域の「山腹用水路」は、他の地域の用水路と比較して、どの程度曲がりくねっているのだろうか？

水路迂回度の計算による用水路の「曲がりくねり具合」の分析（GISと表計算ソフトによるデータ解析）

水路迂回度の計算

水路迂回度の計算結果

水路迂回度の計算結果

「文理融合」「デジタル×リアル」で探究する宮崎の水防災・水環境

水環境 **デジタル** [RQ④] 高千穂郷・椎葉山地域の「山腹用水路」は、なぜこんなに曲がりくねっているのだろうか？

「地質図」との重ね合わせ（GISによるデータ解析）

阿蘇山火砕流由来の溶結凝死岩

阿蘇山火砕流由来の溶結凝死岩

三ヶ所用水

阿蘇山火砕流由来の溶結凝死岩

阿蘇山火砕流由来の溶結凝死岩

「文理融合」「デジタル×リアル」で探究する宮崎の水防災・水環境

水環境 **リアル** [RQ⑤] 高千穂郷・椎葉山地域内で比較すると、「山腹用水路」の特徴に違いはあるのだろうか？

「三ヶ所用水」「五ヶ瀬町」と「下松尾用水（椎葉村）の比較（現地調査/役場資料の分析）

高千穂 29.8 m/10a 27,747 m 93.0 ha

三ヶ所用水 40.5 m/10a 21,976 m 54.0 ha

五ヶ瀬町 34.6 m/10a 34,579 m 100.0 ha

下松尾用水 2.64km

椎葉村 2.6 km

下松尾用水 2.6 km

「文理融合」「デジタル×リアル」で探究する宮崎の水防災・水環境

水環境 **リアル** [RQ⑥] 高千穂郷・椎葉山地域の「山腹用水路」に対して、地域の方々にはどのような思いを持っておられるのだろうか？

「山腹用水路」の維持管理（フィールドワークによる現地調査/聞き取り調査）

地域緑化で草刈り

佐藤先生さん[高千穂町]への聞き取り

（佐藤先生さんの声）  
台風の時の一番大変で、用水路の維持が面倒だという人たちがもってきている。また、昔に用水路の維持・管理を行っていた人は40～50代がほとんどで、60～70代の人ばかりです。学校の教員も来ています。とても大変だが、先祖代々続く土地で水をやるのが何より喜びだ。加えて高齢者も多いため、その間に維持管理を怠ると、その土地、農業にとっても損の中用水路の存在はとてたえない。

実際にフィールドワークにおいて、山腹用水路の見学と法曹の生活のお話を伺うことで、山腹の人々が山腹用水路をどう大切にしているかを理解した。新技術の存在や山腹用水路が、現在も維持管理をしながら機能していること、それを支えるための制度も理解していることに感動した。

「文理融合」「デジタル×リアル」で探究する宮崎の水防災・水環境

今後の課題と私たち五ヶ瀬中等生との関わり方

文系

理系

融合

リアル

デジタル

五ヶ瀬中等生が主体的に活動

水防災

宮崎県民の防災意識の向上  
地域全体の「防災力」向上  
→1人でも多くの命を救う

水環境

世界農業遺産（GIAHS）を構成する一員としての自覚と誇り  
地域資源の価値・魅力の再認識  
→水環境の保全、将来世代への継承

表彰状

日本水大賞

国土交通大臣賞

探究した宮崎の水防災・水環境

宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校

あなたらの活動は流域全体の防災や環境保全を多岐にわたり水循環の健全化に大きく貢献するもので、その功績を深く敬意を表しここに第二十七回日本水大賞の国土交通大臣賞として表彰いたします

令和七年七月八日

国土交通省 中野 洋昌

受賞活動発表動画（R7年7月7日）

受賞活動発表

QRコード

# 4-1 ③日本地理学会 2025 年春季学術大会高校生ポスターセッション「会長賞」

日本地理学会 2025年春季学術大会 高校生ポスターセッション 発表番号65

フォレスト大学 宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校

5年 上楚五喜 (宮崎県宮崎市出身)  
5年 椎葉梅穂 (宮崎県椎葉村出身)  
5年 坂本朋佳 (宮崎県高千穂町出身)

## デジタル×リアルで解き明かす 世界農業遺産 高千穂郷・椎葉山地域の「山腹用水路」の特異性

キーワード：山腹用水路 / 水路迂回度 / 世界農業遺産 (GIAHS) 高千穂郷・椎葉山地域 / 山間地農業複合システム GIS (地理情報システム) / フィールドワーク

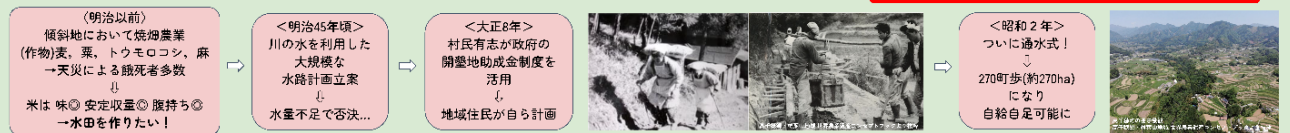
### 研究の概要

世界農業遺産 (GIAHS) に認定されている「高千穂郷・椎葉山地域」(宮崎県北五ヶ瀬町)において、その構成要素として重要な樹田の景観を支える長大な「山腹用水路」を研究対象として、GISの活用とフィールドワーク、文献調査等を組み合わせた様々な分析により、その「山腹用水路」の特異性を明らかにする。宮崎大学農学部竹下准教授との協働により、山奥の水源地から数十kmにわたって伸びている「山腹用水路」が、どの程度曲がりくねっているかを示す「水路迂回度」の計算を行うことで、平野部の用水路との設計思想の明白な違いを明らかにした。また、現地調査と文献調査により、明治～昭和初期にかけて建設に携わった先人の知恵や努力の存在が浮き彫りになった。GISを活用して地質図と重ね合わせることで、阿蘇山の火砕流台地と「山腹用水路」の間には密接な関係性があり、それが地域内における農業景観の違いを生み出していることを明らかにした。



### リアル【RQ①】山間部の高千穂郷・椎葉山地域に、なぜ数十キロにもおよぶ「山腹用水路」があるのだろうか？

「山腹用水路」の歴史 (「三ヶ所用水 (五ヶ瀬町)」の例) <「五ヶ瀬町史」による文献調査>



「米食への憧れ」が原動力となり、人々の数々の努力と土木技術の発達も寄与し、長年の歳月をかけて「山腹用水路」が完成

### リアル【RQ②】高千穂郷・椎葉山地域の「山腹用水路」には、どのような特徴や工夫がみられるのだろうか？

「山腹用水路」の特徴 <高千穂郷・椎葉山地域 世界農業遺産コンセプトブックによる文献調査> (宮崎大学農学部 竹下准教授による講義)

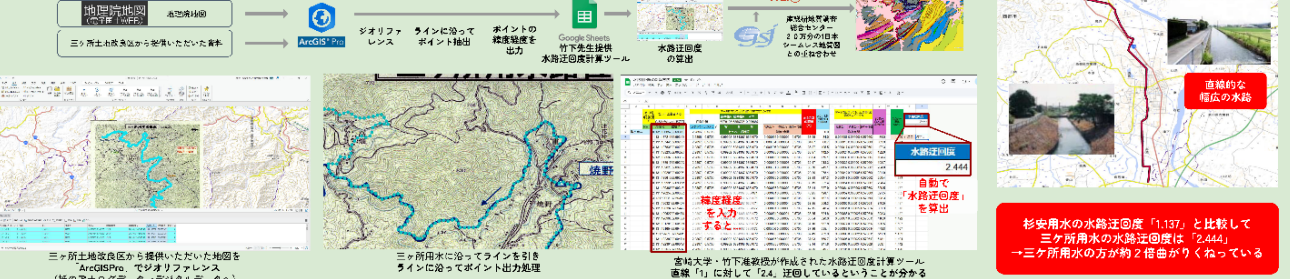
「山腹用水路」建設の工夫 (フィールドワークによる現地調査)



### デジタル【RQ③】高千穂郷・椎葉山地域の「山腹用水路」は、他の地域の用水路と比較して、どの程度曲がりくねっているのだろうか？

「水路迂回度」の計算による用水路の「曲がりくねり具合」の分析 (GISと表計算ソフトによるデータ解析)

平野部の用水路の例: 杉安用水 (西都市)

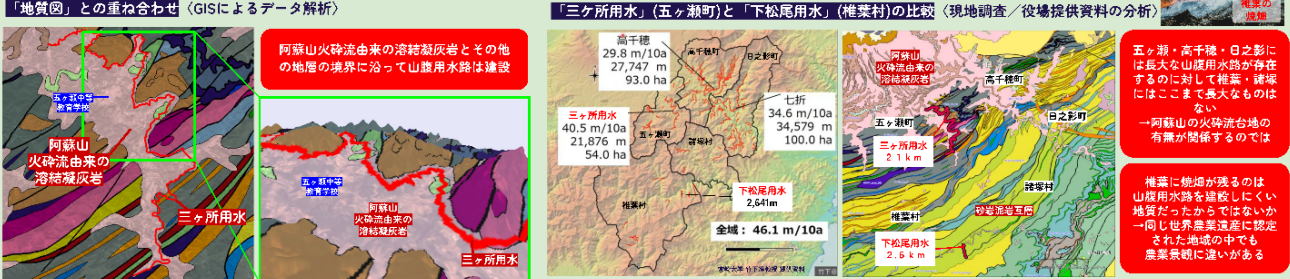


### デジタル【RQ④】高千穂郷・椎葉山地域の「山腹用水路」は、なぜこんなにも曲がりくねっているのだろうか？

「地質図」との重ね合わせ (GISによるデータ解析)

### リアル【RQ⑤】高千穂郷・椎葉山地域内で比較すると、「山腹用水路」の特徴に違いはあるのだろうか？

「三ヶ所用水」(五ヶ瀬町)と「下松尾用水」(椎葉村)の比較 (現地調査 / 役場提供資料の分析)



### リアル【RQ⑥】高千穂郷・椎葉山地域の「山腹用水路」に対して、地域の方々はどういった思いを持っておられるのだろうか？

「山腹用水路」の維持管理 (フィールドワークによる現地調査 / 聞き取り調査)

佐藤光広さんのお話



### まとめ・私たち中等生の今後の関わり方

これまでの研究で、山腹用水路は、一般的な用水路と比べ、独自の価値や特異性があるということが分かった。しかし、そういった価値・特異性があるにも関わらず、山腹用水路の知名度や注目はまだまだ低い。そこで今後は、私たちが解き明かしてきたものを生かし、価値・特異性の発信を行うことで、知名度や注目の向上を目指し、次世代への伝承の継承につなげることができればと考えている。これまで私たちは、学校の探究学習の一環として山腹用水路やそれに伴う稲作など様々なことを学んできたが、山腹用水路の研究でそこで学んだことをさらに深めていく中で、今まで先人たちが守ってきた「高千穂郷・椎葉山地域独自の価値」を受け継ぎ、未来につなげていくことで、私たちがまた GIAHSの一環となることが見えてきた。私たちがもたらした自分たちが住んでいる地域について知り、高千穂郷・椎葉山地域を構成する一部として自覚や誇りを持ち、伝統を継承していくべきだと強く感じた。

### 参考文献

- ① 世界農業遺産 高千穂郷・椎葉山地域ホームページ
- ② 三ヶ所用水・椎葉山地域 世界農業遺産コンセプトブック
- ③ 世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域 地理情報システム (GIS)
- ④ 謝辞  
謝辞に協力いただいた、宮崎大学 竹下准教授、コーディネーターの佐藤光広様、五ヶ瀬中等教育学校 上田先生、その他活動に際わっていただいた全ての皆様へ感謝するとともに、ここに記してお礼申し上げます。

#### 4-2 新聞記事・インターネット記事・TV報道・雑誌掲載情報

年月日	掲載紙	内容・タイトル
R7.4.26 (土)	夕刊デイリー	日本水大賞大臣賞を受賞 宮崎の水防災・水環境を探究
R7.5.2 (金)	宮崎日日新聞	自作わらじで古里満喫 五ヶ瀬中等校生が遠足
R7.5.7 (水)	宮崎日日新聞	日本水大賞大臣賞 日本地理学会学術大会会長賞 五ヶ瀬中等校3人W受賞
R7.6.27 (金)	宮崎日日新聞	日向灘 脅威と向き合う
R7.7.28 (月)	宮崎ニュース UMK	去年日向灘沖での M7.1 の地震に遭遇した中学生と高校生 宮崎市青島でフィールドワーク
R7.7.29 (火)	MRT 宮崎放送	最大震度6弱の地震からもうすぐ1年 青島の住民の意識に変化はあった?宮崎県内の中高生が防災フィールドワーク
R7.7.29 (火)	宮崎日日新聞	津波発生時の課題把握へ 五ヶ瀬中等校生ら青島調査きょうまで
R7.8.2 (土)	宮崎日日新聞	土呂久は環境教育適地
R7.8.8 (金)	宮崎大学 ホームページ	「いのち」の教育について考え、学ぶ～鶏の解体学習を大学生が参観～
R7.9.21 (日)	宮崎ニュース UMK	のびよ!みやぎきっ子 台湾・韓国旅「修学旅行プロデュース大会」
R7.9.29 (月)	夕刊デイリー	五ヶ瀬の荒踊り、勇壮に 恒例の秋季奉納、後世へ
R7.11.25 (火)	みやぎきひなた ch (みやひな ch)	地域を繋いだ奇跡の用水路
R7.11.26 (水)	NHK	NHK ラウンドテーブル 地域課題を傾聴!集合知で改善へ
R7.11.28 (金)	NHK	てげオシ!“集合知”で未来を作る～宮崎発!防災会議～
R8.1.23 (金)	株式会社リクルート ホームページ	『高校生 Ring2025』セミファイナリスト 家族の絆がずっとある「ファミリーレーション」
R8.1.31 (土)	MRT 宮崎放送	みらい・みやぎき まなび隊 ひなた DX コンテスト 2025
R8.2.22 (日)	MRT 宮崎放送	日南 南海トラフ巨大地震想定した避難訓練
R8.2.26 (木)	宮崎日日新聞	津波避難アプリ使い訓練 五ヶ瀬中等と日南高生
R8.3.9 (月)	宮崎大学 ホームページ	～ 数理・データサイエンスコンペティション ～ ～ みやデジ・アカデミーシンポジウム ～

### 4-3 運営指導委員会

#### 1. 事業のねらい

運営指導委員会は年2回開催し、事業の計画、実施体制、実施方法、実施状況等について本校からの報告のもと、専門的な見地から指導・助言を行うとともに、事業実施上の課題について、解決の方策に関する助言を行う。また、学校による自己評価の妥当性

の評価や、生徒の成果発表会等の各種の取組の成果や事業の効果について、専門的な見地から指導・助言を行い、本校における事業の改善・充実に向けた支援を行う。

また、三浦氏、野添氏は、カリキュラムアドバイザーとして教育カリキュラム開発や学校設定科目の開発について、事業の目標を達成するためにより効果的な成果を得るための助言を行う。

#### 2. 事業の概要

運営指導委員一覧

所属	氏名	主な実績
授業デザイン研究所 代表	三浦 隆志	元岡山県立林野高等学校長、経済産業省「未来の教室」実証事業教育コーチ。
国立大学法人宮崎大学 大学院教育学研究科 教授	野添 生	国立教育政策研究所「新たな学びの実現に向けた教育課程の在り方に関する研究」探究班に係る委員、「学校における教育課程編成の実証的研究」国際研究班(STEAM)に係る委員。
九州医療科学大学薬学部 教授	甲斐 久博	宮崎大学 産学・地域連携センター 講師。五ヶ瀬高等学校(現 五ヶ瀬中等教育学校)第1期卒業生。在学中は、「総合的な学習の時間(フォレストピア学習)」において体験活動に基づく課題研究を経験。宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローカル型)運営指導委員。
国立大学法人宮崎大学 学び・学生 支援機構地域人材部門特別講師	中山 隆	一般財団法人こゆ地域づくり推進機構教育イノベーション推進専門官。小中高生を対象にしたキャリア教育、教員向け研修や自治体向け研修、生涯学習講座の企画・運営。
特定非営利活動法 STeLA Japan/ 株式会社ディープコア	根本 紘志	東京大学大学院・国立教育政策研究所などで学習科学・教育工学の研究や、科学技術政策に関する研究・提言を行う。

## 4-4 最終成果報告会／運営指導委員会 議事録

### (1) 事業のねらい

運営指導委員会を年2回開催し、学校評価や生徒による成果発表等の各種イベントの評価を踏まえて、カリキュラムアドバイザーの助言に基づいたカリキュラムの改善及び開発を行う。

### (2) 事業の概要

#### ①第1回運営指導委員会

日時:令和7年8月22日(金)

会場:五ヶ瀬中等教育学校 G-lab.

内容:**第1部** 運営指導委員会

学校長挨拶

県教育委員会挨拶

事業報告

・探究力を育む学校設定科目等のカリ

キュラム開発に関する事業

・オンラインを活用した大学や研究機関・

協力校との連携に関する事業

・先端技術(デジタル)と体験活動(リアル)を融合させた「新次元の教育活動」に関する事業

・評価に関する事業

質疑応答

**第2部** 指導・助言

#### ②最終成果報告会／第2回運営指導委員会

日時:令和7年12月11日(木)

会場:五ヶ瀬中等教育学校 G-lab.

内容:**第1部** 授業公開

文理融合・教科横断型授業公開ⅠⅡ

ファミリー探究座談会／研究協議ⅠⅡ

**第2部** 最終成果報告会

創P事業 最終成果報告会／参加型ワークショップ

**第3部** 運営指導委員会 指導・助言

### (3) 事業の成果と課題

#### ①第1回運営指導委員会議事録(一部抜粋)

○授業時間(55分授業)に関する議論

生徒の集中力が続くか懸念があるものの、他

校での事例や本校生徒の特性から「実施可能」との見方がある。ただし、授業内容の工夫が不可欠。お茶の水女子(45分授業+午後は大学連携)などの事例を挙げ、必ずしも「55分授業」が唯一の解決策ではなく、本校(五ヶ瀬)に合っているか再検討の余地がある。

○生徒の「二極化」と評価・サポート

二極化の軸が「学力・偏差値」なのか「学習に取り組む態度(意欲)」なのかを明確にする必要がある。他者との比較ではなく、「過去の自分との比較(変容)」や、独自の指標(GPやSM等)の達成度を軸とすべき。二極化を議論する上でも、基礎的な知識(ナレッジ)はおろそかにせず、最低限身につけさせる必要がある。学力が低くても特定分野で飛び抜けている生徒は、本校の環境だからこそ目立ち、評価されやすい。何かの分野に引っかかっている生徒は良いが、どれにも該当しない生徒には手厚いサポートが必要。

○教科横断型授業・探究(学際探究・フォレ探)

「学際探究」が導入されても、既存の「フォレ探」がなくなるわけではない。学年が変わるごとに内容が変わっても問題はなく、本校の取り組みを宮崎県全体に波及できる可能性がある。学年ごとに明確なテーマ(例:1年「木」、2年「命」、3年「武道・スポーツと社会」など)を持たせるのも良い。「教科横断」自体が目的になっていないか注意が必要。何を身につけ、どう使うのかが重要。トライアルの時期は過ぎており、探究で学んだことを各教科に還元し、苦手科目の克服に繋げる視点を持つなど、本格的な検証が必要。

○学びの多様化と生徒の意欲の引き出し方

生徒が丸一日考えるような「集中的な時間の投下」や、部活動のように限界を伸ばす機会があっても良い。生徒が興味やキャリアに応じて弾力的に科目選択できることが重要だが、「自由に楽しく学べる」という誤った解釈には注意が必要。学習指導要領の本質と教科書の内容が一致しているか注視しつつ、「学び方を学ぶ」姿勢(午後を自由な学びにする他校事例など)を参考にすべき。「やせいみ・探究・自然・つながり・自治・DX・フォレ探」といった本校の魅力がしっかり生徒に伝わっているか。自校を説明する「問い」を明確に持つべき。

## ②授業公開／最終成果報告会議事録

参加者：運営指導委員4名，管理機関3名，宮崎県内企業1名，教職員・教育関係者（宮崎県外）2名，教職員・教育関係者（宮崎県内）13名，県内小学校6年生1名，保護者1名，本校保護者9名 計34名

### ○生徒の素晴らしい姿

一般的な高校生以上の思考力があり，自ら問いを持ち，対話を通して答えを導き出す姿勢が育っている。プレゼンテーションの完成度が高く，発表後の質疑応答でも積極的に深い議論が行われていた。

### ○先生方の指導力と組織力

先生方の熱気や，生徒のために考え抜かれた深い教材研究が伝わってきた。一般の公立校では難しい「組織的な探究活動」が実践されており，教職員の組織力の高さが伺える。

### ○授業デザイン（教科横断・ICT活用）

教科書の枠を超えた学習課題により，受け身ではないワクワクする学びが展開されている。タイとの Zoom 交流や，英語を用いた自然科学のプレゼンなど，多角的な学びが実践されていた。端末に振り切ることなく，効果的に ICT（Zoom や生成 AI など）が活用され，生徒の学びを広げている。自然豊かな環境と不便さを活かした，「野性味あふれる価値の創造ができる人材育成」という目標が体现されている。

### ○今後の課題・要望・改善点

今回の授業では理系科目との「融合・絡み」が少なかったため，もっと見たかった。また，生成 AI（Gemini）の使用において，生徒自身がプロンプトを考える機会があるとさらに良い。保護者の参加者が少なかったため，参加しやすい金・土曜開催や，Classroom 等での積極的な事前告知をしてほしい。発表が長引き，他の授業を見に行けなかったのが少し残念だった。

## ③第2回運営指導委員会議事録（一部抜粋）

### ○探究学習（学際探究）の成果と今後の課題

以前は不明確だった部分もあったが，今回の発表で生徒の成長がはっきりと確認できた。生徒自身が「意外な自分」や「潜在性」に気づける教科として機能している。探究には時間をか

けることが重要。「手を動かす」だけでなく，空白の紙に書き記すなど「頭を使う（記憶・記録する）」プロセスも大切である。グループ学習を今後どう展開していくかが課題。また，探究活動という枠組みが変わったとしても，各教科の中で探究的な視点を持ち続けることが重要。最終発表会の意義や五ヶ瀬ならではの良さを大人は理解しているが，生徒自身には伝わりづらい部分があるため，何のための場なのか目的を明確にする必要がある。

### ○教員の成長と協働・指導体制

教科横断での先生方の協働手法や著しい成長は，宮崎県全体の宝であり，他校へ異動した際にも広めていってほしい。先生方同士の仲の良さが，そのまま学校全体の良い雰囲気や相乗効果につながっている。属人的にならず，誰でも使える仕組みづくりが必要。他県の事例（探究専門の教員配置や人事異動の工夫）も参考にし，探究をミッションとして語れる教員を育てる配慮が求められる。

○独自の評価手法（G-CAT等）に対する高評価  
G-CAT（本校独自の評価テスト）は「単純に面白い」と好評。本来学校で測りにくいコンピテンシー（資質・能力）を独自の問題で測ろうとする試みは非常に優れている。これらのテストを通じて，生徒自身に「やはり基礎的な知識が必要だ」と気づかせ，そこに向かわせる設計になっている点が素晴らしい。

### ○五ヶ瀬独自の魅力（野性味・キャリア）の言語化と発信

他の進学校に比べて卒業生のイメージがやや曖昧。五ヶ瀬出身の起業家など，その先の「野性味あふれるキャリア」や育った人物像をベンチマークとして県全体に示していくべき。寮生活という特別な環境で五感を働かせる場面が，生徒のコア（核）やキャリアを育てている。LOCAL から Global へ視野を広げること（アジア風イェナプランの解釈など）が期待される。また，6年間の土台から将来へどう繋がるのか，縦のつながり（カリキュラム等）を可視化して見せる必要がある。これまでの概念図（ポンチ絵）は描き直す時期に来ている。

4-5 令和7年度教育課程授業時数及び単位数表(A表)

前期課程			後期課程(普通科)										
年間授業時数(週)			教科名	科目名	標準 単位数	4年	5年	6年				備考	
1年	2年	3年						学際	文系	理Ⅰ	理Ⅱ		
155 (4.3)	140 (4)	105 (3)	国語	国語	◎現代の国語	2	2						
					◎言語文化	2	2						
					論理国語	4		2	2	2	2	2	
					文学国語	4							
					国語表現	4							
					古典探究	4		2	3	3	3	2	
				設:表現探究	4		②						
105 (3)	105 (3)	35 (1)	歴史 総合	地理	◎地理総合	2	2						
					地理探究	3							
		35 (1)	公共	歴史	◎歴史総合	2	1						
					日本史探究	3		2	3	4	4	4	4
		70 (2)	社会	公民	◎公共	2	1						
					倫理	2		②	2		2		
				政治経済	2			2	2				
140 (4)	140 (4)	70 (2)	数学Ⅰ	数学	◎数学Ⅰ	3	1						
					数学A	2	1						
		35 (1)	数学A		数学B	4	2		2				
					数学C	2	1	①/②					
		35 (1)	数学		数学Ⅲ	3		①		2	2		
					数学C	1~2		1		1	1		
			設:数学探究				2	1	2				
105 (3)	140 (4)	140 (4)	理科	理科	◎物理基礎	2	2		2				
					物理	4			②				
					◎化学基礎	2							
					化学	4			②		3	3	
					◎生物基礎	2	2						
					生物	4					4	4	
				設:理科基礎探究				3					
105 (3)	105 (3)	105 (3)	保健 体育	保健 体育	◎保健	2	1		1				
					◎体育	7~8	2	3	2	2	2	2	
45 (1.3)	35 (1)	35 (1)	音楽	芸術	◎音楽Ⅰ	2							
					音楽Ⅱ	2							
					音楽Ⅲ	2							
45 (1.3)	35 (1)	35 (1)	美術		◎美術Ⅰ	2	2						
					美術Ⅱ	2			②				
					美術Ⅲ	2				②			
/	/	/	書道	◎書道Ⅰ	2								
				書道Ⅱ	2								
				書道Ⅲ	2								
140 (4)	140 (4)	140 (4)	外国語	外国語	◎英語コミュニケーションⅠ	3	3						
					英語コミュニケーションⅡ	4		4					
					英語コミュニケーションⅢ	4			4	4	4	4	
					論理・表現Ⅰ	2	2						
					論理・表現Ⅱ	2		1	1	1	1		
					論理・表現Ⅲ	2							
70 (2)	70 (2)	35 (1)	家庭 基礎	家庭	◎家庭基礎	2	1						
					◎家庭総合	4							
/	/	/	/	/	◎情報Ⅰ	2	2						
					情報Ⅱ	2							
					設:情報探究			1	1				
					設:情報活用			②					
/	/	35 (1)	学際 探究	学際	学際探究基礎	1							
					学際探究	2~5			②④				
35	35	35	道徳										
35	35	35	特活		LHR	3	1	1	1	1			
70	70	70		総合的な探究の時間		3~6	2	2	1	1	1		
1050 (30)	1050 (30)	1085 (31)	総時 間数		総単位数		33	30	30	30	30	30	

※ 後期課程の科目の◎は必履修、○は選択必履修です。  
 ※ 後期課程の内容の一部を、前期課程に移行して履修します。(太字・下線)  
 ※ 5年では①②から2単位、②から2科目(4単位)を選択して履修します。  
 ※ 6年学際は②②④から8単位を選択します。(②④は重複不可)

4-6 令和7年度「グローバルフォレストピア探究」学際探究基礎(3学年)「年間カリキュラム表

コンソーシアムメンバー、地域サポーター等との連携

目標	VUCA時代を生き抜き野性味あふれる『価値創造人材』の育成 身につけさせたい「5つの力」(1)関連付ける力 Associating (2)問う力 Questioning (3)見る力 Observing (4)試みる力 Experimenting (5)繋がる力 Networking																							
実施予定日	GF①	GF②	GF③	GF④	GF⑤	GF⑥	GF⑦	GF⑧	GF⑨	GF⑩	GF⑪	GF⑫	GF⑬	GF⑭	GF⑮	GF⑯	GF⑰	代表発表						
単位時間数	教育課程外 学年行事										教育課程外 学年行事		教育課程外 学年行事		教育課程外 学年行事		教育課程外 学年行事							
1年	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月					
2年	4/24(木)	5/15(木)	5/22(木)	6/5(木)	7/3(木)	7/17(木)	7/21(月祝)	9/18(木)	9/28(日)	10/23(木)	10/31(木)	11/27(木)	12/13(土)	12/18(木)	1/15(木)	1/29(木)	2/19(木)	3/7(土)	3/12(木)	3/13(金)				
3年	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月			
4年	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月		
5年	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	
6年	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月	3月

○ GIMS協議会、五ヶ瀬町など地域や関係機関との連携  
 ○ GIMSがミ、(高校生自主活動グループ)への参加 [内容: 高千穂高校の参加者と共にWebメディア「Uこころき」の出展など]の企画・運営、参加を行う。] (対象: 4~6年生)  
 ○ 「創造的探究方法実践プログラム」のコンソーシアムメンバー・コーディネーターとの連携  
 ○ 教員講座への参加 (対象: 1~5年生)

## 4-7 担当者一覧

### ○管理職

校長	鎌田 雄一
後期教頭	吉田 大二郎
前期教頭	園田 敦己
事務長	小玉 雅一

### ○コーディネーター

446株式会社	吉村 優
446株式会社/おさとう works	佐藤 翔平

### ○まなカリPT

研究調査部主任 まなカリPTリーダー	上田 聖矢
まなカリPT副リーダー	門田 直道
教育DX推進チームリーダー	友岡 秀文
教務部主任	猿渡 康介
進路指導部主任	山田 和孝
まなカリPTメンバー	山之内 岳 山本 大輔 橋口 宣文



令和7年度 新時代に対応した高等学校改革推進事業  
(創造的教育方法実践プログラム)  
研究開発実践報告書【3年次】

2026年(令和8年)3月 発行

発行者：宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校  
校長 鎌田 雄一



〒882-1203 宮崎県西白杵郡五ヶ瀬町大字三ヶ所 9468-30

TEL 0982 (82) 1255 FAX 0982 (82) 1266